

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立科学技術高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（総務部）、経営企画室長、総務部員2名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部）、主幹教諭（進路部）、主任教諭（保健部）、主任教諭（生徒部）、主幹教諭（総務部）、主幹教諭（研究部） 計9名
- (4) 協議委員の構成
拓殖大学教授、本校後援会2名、江東区青少年委員会会長、江東区立中学校長2名、江東区教育委員会教育支援課統括指導主事、江東区大島一丁目会長、子どもの成長と環境を考える会代表 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月14日（金）内部委員9名、協議委員6名
学校長挨拶、委嘱状交付、自己紹介、役員紹介、本校の現状と課題等説明、意見交換、事務連絡
 - 第2回 令和6年11月8日（金）内部委員9名、協議委員6名
学校長挨拶、これまでの教育活動に関する説明、各分掌・学年等の取り組みと成果についての中間報告・意見交換、学校評価アンケートについて内容検討・協議、事務連絡
 - 第3回 令和7年2月14日（金）内部委員9名、協議委員5名
学校長挨拶、これまでの教育活動に関する報告、各分掌・学年等の取り組みと成果についての報告と意見交換、授業アンケート・学校評価アンケートについての報告と意見交換、事務連絡
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月14日（金）内部委員2名、評価委員2名
昨年度の学校評価アンケートの概要説明、今年度の学校評価のスケジュール確認
 - 第2回 令和6年11月8日（金）内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケート案の検討
 - 第3回 令和7年2月14日（金）内部委員2名、評価委員1名
今年度の学校評価アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：621人 回答：549人 回答率：88.4%
 - ・12月 保護者全員 対象：621人 回答：305人 回答率：49.1%
 - ・12月 地域・住民 対象：29人 回答：24人 回答率：82.8%
 - ・12月 教職員 対象：67人 回答：60人 回答率：89.6%
- (3) 主な評価項目
教育目標、学校生活の充実、電話対応、授業のわかりやすさ、理解度に応じた授業の工夫、科学技術・理数に関する授業、生活指導の周知、生活指導の理解、進路指導の連携、進路指導の方法、学校行事、生徒の個性、健康安全指導、防災活動、清掃状況、施設・設備の修理、SSH事業、本校でつけられる資質・能力、学校生活の満足度、ライフ・ワーク・バランス、特色ある学校づくり、地域との連携、開かれた学校づくり、等について。
- (4) 評価結果の概要
 - ・学校評価アンケートの回答方法を、地域・住民以外は書面回答からWeb回答に移行した。その結果、生徒、教職員の回答率が下がってしまった。原因是回答者、未回答者を把握できることにより、未回答者に再度回答依頼ができないためである。今後、回答率を上げるための対策が必要である。一方で保護者の回答率が増加した。これは書面でのお願いに合わせ、スタディーサプリ、Classiを通して依頼したためだと考えられる。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ・教育目標の周知に関しては、保護者は肯定86%と高く、生徒は55%と評価に開きがあった。本校の教育目標をわかりやすく生徒に伝えていく必要がある。
 - ・学校生活の充実感や学校行事に対する評価は、生徒・保護者共に昨年度より満足度が高くなつた。

- ・授業のわかりやすさについては、教職員が教材や教え方に工夫をしていると回答し、生徒の肯定評価も90%と高い反面、保護者の肯定的評価は68%とやや開きがある。さらなる教材研究や授業方法の改善に努める。
- ・科学技術・理数に関する授業については、保護者・生徒の8割～9割が学校の取り組みを肯定的に評価しており、本校の特色ある教育活動について高評価を得ている。
- ・生活指導の方針やきまりは、生徒の91%が理解している。今後は、その目的や取り組みについて、生徒の理解を深めさせる。
- ・進路指導については、生徒の適性や希望を生かした適切な進路指導が行われていると感じている生徒は73%に対し、保護者との連携が密であると感じているのは60%であった。保護者に対する情報提供の機会を増やし、連絡を一層密にする等の取り組みが求められる。
- ・SSH事業については、保護者の88%、生徒の93%が本校独自の教育プログラムを肯定的に評価している。本校の根幹となるべき取り組みでもあり、一層の充実を図っていく努力を継続していく。
- ・開かれた学校づくりや地域との連携について、地域の方々は判断ができないとの意見が以上に多い。授業公開、公開講座、文化祭を外部に向けた周知を徹底していく必要が次年度は必要とされる。
- ・学校の施設設備の修繕については肯定回答が増加した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・協議委員との意見交換を通して、本校に対する理解を深めていただくと同時に、客観的な提言をもとに、具体的な取り組みを模索する事ができた。
 - ・教職員が、学校運営連絡協議会での議論をもとにして、学校を良くしていこうという意識をより高める事ができた。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・地域や保護者に対して学校の活動を周知していくことが重要課題。ホームページの更新回数が大幅に増加しているが、掲載内容の質の向上を図り地域に対しても学校開放等を利用し連携を図っていく。
 - ・大学入試が多様化していく中で、総合型選抜や学校推薦型選抜に対しての指導の徹底と、基礎学力の定着に向けた組織的な取り組みを今後も行っていく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- (1) 学校運営
 - ・先進的・実践的な科学技術・理数教育を推進する学校として、幅広い科学的知識や技能を培い、大学進学に向けた普通教科指導に加え、実験・実習や大学・研究機関と連携した体験学習を豊富に取り入れ、校内外での研究活動・研究発表を充実させることで、将来の科学技術者・研究者として活躍できる生徒を育成する。
- (2) 学習指導
 - ・学校設定教科・科目の内容を充実させ、数学・理科・英語に習熟度別授業等を多く取り入れ、理系に特化した教育課程を編成する。さらに課題研究・探究活動を中心に据え、様々な教科で探究活動を取り入れる。
 - ・創造理数科運営委員会とともに、学校設定科目や展開授業、自由選択科目等について検討し、科学技術科と創造理数科が並置される中で、生徒の実態を踏まえて、どのようにすればより高い教育効果を生み出していくかについて、全教職員の知見を活かし模索していく。
 - ・充実した施設・設備を基に、実験・実習やフィールドワーク等の体験的な学びを通して科学技術・理数への興味・関心を伸長し、問題解決能力を高め、生徒の主体性を伸ばす校内外の研究活動・研究発表の内容充実を図る。
 - ・退学者・転学者を最小限にとどめ、特に、退学者が出ないように丁寧な指導を行う。
- (3) 特別活動
 - ・外部の発表会やフィールドワーク及び企業や大学の研究室の訪問を通じて、発信力や課題に取り組む姿勢を育成する。
 - ・英語による研究発表等を実施し、多様な文化を尊重できる胎動を育み、国際的に活躍できる科学者の育成に努める。
- (4) 生活指導
 - ・挨拶の響く明るい学校を推進し、遅刻指導やセーフティ教室の実施等により、規範意識や望ましい倫理観を育成する。
 - ・教育相談委員会を実施し、問題や課題を抱えている生徒の状況を共有する。支援内容を検討するにあたって、SCや巡回心理士の助言も受け、様々な立場の意見を参考に検討し支援内容を決定、全教員の周知のもと支援を行っていく。また、教職員対象の生徒理解に関する校内研修会を実施する。

(5) 進路指導

- ・模試分析会を定期的に行い、学力向上の対策を充実させる。
- ・外部研究施設見学や大学研究室訪問、講演会を通して自己の在り方・生き方について学び、将来の進路について考える機会を充実させる。
- ・外部模擬試験の活用、個別指導の充実、学習支援クラウドの活用を推進する。

(6) 健康・安全

- ・熱中症予防講習会やアレルギー対応の校内研修会を実施し、継続した生徒の健康管理や健康診断の効率的な運営を行う。
- ・感染症対策のための物品をそろえ管理・活用する。
- ・保健委員会による美化用品の補充やごみの分別活動を定常的に行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からぬ	無回答
3	3	1	0	0	1	1

7 企画調整会議及び職員会議への協議委員の参加実績及び成果

今年度は協議委員の参加実績がなかった。